

# 学生中心の英語授業カリキュラム開発を目指して

— 愛媛大学法文学部「専門共通英語」 —

## The Current State and Issues of “Senmon Kyotsu Eigo” Classes

早 田 美 保

Miho Hayata

### 1. はじめに

愛媛大学法文学部は、平成28年度の改組によりそれまでの2学科から1学科3コース（法学・政策学履修コース、グローバル・スタディーズ履修コース、人文学履修コース）となった。その際にさまざまなカリキュラム改編が行われた。その新カリキュラムは平成28年度新入生から適用されることとなり、その中に筆者が主に担当する専門共通英語があるが、これらは2年生での受講科目であるため、実際に授業が開始したのは平成29年度からであった。

本稿は導入開始から丸5年が経過した現在において、専門共通英語の開始期からの授業担当者の1人であり、現在では全科目の担当と管理運営に責任を負う筆者が、2年生対象の必修英語科目を管理運営するにあたり、2つの課題—開講3年後の再編、単位未修得者の問題—にどう向きあって改善してきたかを報告することを目的としている。

なお、本稿はこれまでの授業やカリキュラム開発の実践報告であるため、授業のために学生から収集したデータを利用しているが、個人が特定されず不利益にならない形で扱うよう倫理面に配慮した。

### 2. 専門共通英語の現状と課題

#### 2.1 カリキュラムの概要

専門共通英語は、平成28年度より法文学部生の必修科目の実践科目群に発足した21科目の科目群である。科目はリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能を高めるもの、映画、音楽、プレゼンテーションに関わるもの等多岐にわ

たり、そのうち2科目を学生は選んで受講する（ア・ラ・カルト方式）という画期的なものであった。実践科目群とは、法文学部のカリキュラム・ポリシーによると「学びの成果を社会に活かす実践知を涵養する科目として、アクティブ・ラーニングの手法を全面的に取り入れた」ものと設定されている。発足当時からの担当者の1人として筆者は実践的な英語力の向上を目標とし、4技能の向上と教養としての英語を身につけさせるということを中心掛けることとなった。

## 2.2 履修のシステム

この科目群の開講には大きく2つの特徴がある。1つは、提供される科目の種類と数が非常に幅広いということから、学生のさまざまな興味に対応できるように設定されているということである。もう1つは受講の形式についてであり、2年生の必修科目ではあるが、1年生後期のうちに履修科目を選択して希望調査に回答し、定員（50人もしくは20人）に応じてクラス分けを行うことで各自の履修科目を確定させる。つまり、2年生になってから各自で修学支援システムから履修登録をするのではなく、1年生で共通教育科目（英語Ⅰ－Ⅳ、それぞれ順にスピーキング・リスニング・ライティング・リーディングの授業となっている）を履修する間に自分の興味や目標を見つめ、今後自分が英語とどう向き合っていくのかを考える良い機会を提供しているのである。このため、特定の科目に多数の学生が受講登録をしたり、受講者がゼロとなって閉講になる授業が出るのが避けられ、年度初めの受講登録で混乱が起きることがない。

この履修システムは、学生だけでなく担当教員にもメリットが大きい。事前に受講人数がわかることから、授業スタイルの決定や教材の選択が容易になり、受講者によりよい学習環境を提供できるからである。また、これらのことは学務職員の負担軽減にもつながる。さらに、履修希望に関する調査を通じて、受講する学生にとってどのような英語科目が求められているかを知ることができる。希望調査の回答を見れば、学生の興味や身につけたい技能を知ることが可能であり、将来的に開講科目を見直す時にも役立つ情報を得ることができる。カリキュラムの運営については、開始後3年経過後に見直しが予定されていたため、管理運営にかかわる筆者としては、履修調査時や担当授業内で学生から来るコメントも、カリキュラム改善に活用できることとなった。

1年次後学期の説明会は、全法文学部生が集まる木曜1限のグリーンホールでの「人文社会科学入門」の1回を使い、説明資料を配布し科目概要や登録方法までを説明した。その際には質問をその時間内に受けて直接回答したり、出席カードに書かせたり、筆者へのメールで集めた。質問への回答は、Moodleに作成した専門共通英語

希望調査アンケートページ上で、質問者の名前を出さない形で行った。希望調査期間は2週間とし、Moodleの「アンケート」機能（平成29年から平成31年まで。平成元年の調査は「フィードバック」機能）を用いて行った。希望調査アンケートは、回答率はおおむね90%を超えた。調査の未回答者は、回答した学生の振り分け後に振り分け、その後夜間主学生・編入学生の順でクラスに定員まで空きがある場合に入れることとした。クラス分け作業は11月末から12月初旬に学生アルバイト1名によるExcelデータ整理の補助を得て行い、法文学部学務チーム担当者にデータを送り3月下旬の次年度受講登録日までに入力してもらった。

実際のクラス分け作業に関しては、21科目（うち8科目が定員20名（スピーキング・ライティング科目）、残りが50名）から第1希望から第8希望までの回答を得て、ごく数名を除き、それぞれの第4希望科目までの中で履修科目を決定することができた。

再履修・追加履修（2科目を超える希望がある場合）は3年生からの履修となる。定員はスピーキング・ライティングの「発表」系科目は20名、その他は50名としている。科目の中には1、2などの番号付きの科目があるが、担当者が異なったとしても、同一の担当者が異なる内容を教えていたとしても履修はできないものとしている。また、平成29年度から令和元年度まではクォーター制の学期制度を採用していたため、同一クォーターで2科目取ることはできないことが決まっていた。またTOEIC関係の科目は、レベルをまたいだ履修、例えばTOEIC基礎講座とTOEIC中級講座の2科目を履修することはできない。発足時の科目は以下の21科目であった。

(表1 平成29年度－平成31年度 専門共通英語開講科目)

科目名	開講期	定員
Brush Up Your English Grammar 1	1	50
Brush Up Your English Grammar 2	1	50
English Pronunciation Practice 1	3	50
English Pronunciation Practice 1	4	50
Speaking and Presentation Skills 1	1	20
Speaking and Presentation Skills 2	1	20
Writing and Presentation Skills 1	4	20
Writing and Presentation Skills 2	4	20
Practical Listening skills 1	3	50
Practical Listening skills 2	3	50
Practical Reading Skills 1	2	50
Practical Reading Skills 2	2	50
Academic Reading Skills 1	2	50
Academic Reading Skills 2	4	50
映画で学ぶ英語	1	50
音楽で学ぶ英語	2	50
TOEIC基礎講座 1	1	50
TOEIC基礎講座 2	2	50
TOEIC中級講座 1	2	50
TOEIC中級講座 2	3	50
TOEIC上級講座	4	50

### 2.3 平成29年－平成31年の履修希望調査からわかったこと

筆者が調査に直接かかわったのは平成28年度入学生（平成29年度開講分）からであるが、希望調査回答から見てきた傾向を記す。第1希望に選ばれた科目について、最も希望が多かったのは、「映画で学ぶ英語」であり、第1希望とした学生は273名の回答中106名であった。次に多いのは、「音楽で学ぶ英語」であり、第1希望に選んだ学生は73名である。翌平成30年調査の第1希望は、251名の回答中「映画で学ぶ英語」が122名で、次に多いのは「音楽で学ぶ英語」64名であった。平成31年調査（令和元年度は後述するように15科目となっている）の第1希望は241名回答中、第1希望の最も多かったのが「映画で学ぶ英語」132名、次に多いのが「音楽で学ぶ英語」53名であった。3年間の調査において、第1希望の科目として回答者の38.8%、47.8%、54.8%が「映画で学ぶ英語」を選んでおり、この科目が最も受講ニーズが高いということがわかる。また、「音楽で学ぶ英語」に関しては、平成29年調査から平成31年調査まで26.7%、25.4%、22.0%と減少傾向にあったものの、学生が文化を通じて英語を学ぼうとする姿勢がわかる結果となった。

開講期に関して平成29年度の回答を見てみると、第1希望科目について前期（第1・第2クォーター）開講の科目を第1希望に挙げた学生がきわめて多く、また、科

目の内容に関わらず1限の科目が選ばれにくい傾向がわかる。この傾向は翌年以降も変わっていない。

非常に多くの学生が希望科目の上位に選んだのは「映画で学ぶ英語」「音楽で学ぶ英語」であるが、それ以外の科目については文法・発音の科目のニーズが比較的高い傾向にある。特に第3希望科目に注目したところ、第1希望科目と第2希望科目で「映画で学ぶ英語」「音楽で学ぶ英語」を選ぶことが多い学生にとって、第3希望科目は「映画（音楽）と一緒に取りたい科目」であると考えられる。第3希望科目の上位は文法・発音・TOEIC科目と並び、この傾向はこの5年間変わらない。これについては、筆者が担当する科目でのコメントに単語力と文法が不安、TOEICの勉強に悩んでいると書く学生が多いことから理解できる事実である。

### 3. カリキュラムの再編

#### 3.1 科目の統合

平成31年に専門共通英語は学部必修科目からグローバル・スタディーズ履修コース（定員60名）学生の必修科目、そして法学・政策学履修コースと人文学履修コースの学生には選択科目となることが決定されたことから、科目の大幅な統合を含めた再編が必要となった。平成29年度履修学生の単位取得率は約88%と低くない数字になったことと、単位未修得の学生（2単位不足（1科目）が27名、4単位（2科目）不足の学生が16名）のうち、翌年に単位を取得した学生はそのうちのそれぞれ半数であることを考慮し、令和元年度を新カリキュラムへの移行期間と位置づけて、全法文学部生必修科目のまま15科目の提供をすることとなった。

令和2年度に専門共通英語を履修する学生（令和元年度入学生）に提供する科目を決めるにあたり、これまでの希望調査回答結果を参考にして再編を進めた。入学生へ配布する『修学の手引』発行のための締切を考慮すると、科目の再編は平成29年度と平成30年度の履修希望調査の結果から判断したものをもとに行うことが必要となった。

最初に、同一科目で2回開講される数字（1、2）付きの科目を1つにしたところ13科目となり、また後学期開講科目が前学期より3科目少なくなることから、Academic Reading Skills 2・Practical Listening Skills 1, 2を残して15科目を令和元年度開講科目とした。次に、令和2年度以降の再編後8科目については、それぞれ学生に人気の高い「映画で学ぶ英語」と「音楽で学ぶ英語」を開講することをまず検討し始めた。学生の興味とニーズから考えるなら、「音楽で学ぶ英語」は提供を続けるべきである。しかしながら、「映画で学ぶ英語」に比べると平成30年度以降希望回答率が下

がってきていることと、English Pronunciation Practice の授業運営状況を考えて統合対象とした。English Pronunciation Practice の授業運営において基本的な音声学の解説を交えて発音練習と個別指導を行っていたところ、音声学的な解説が多くなるとあまり実践的な科目とは言えなくなり、発音練習をあまり多くすると受講者からはかなり疲れるといった声が出ていたためである。そこで、English Pronunciation Practice 1では洋楽や practical（実用的な）リスニング教材（ニュースなども含む）をも扱うこととし、その結果 English Pronunciation Practice 1・Practical Listening・「音楽で学ぶ英語」を統合する形とするに至った。

TOEIC 関係の科目は平成29年度に基礎2科目・中級2科目・上級1科目として開講したが、平成29年度の希望調査の時点で基礎講座よりも中級・上級講座の希望が遙かに多いため、基礎講座の授業内容は文法（Brush Up Your English Grammar 1）と発音（English Pronunciation Practice 1）に統合可能と判断した。

同様に、Practical Reading Skills 1と Practical Listening Skills 1, 2については、実用性の高い英文を読み聞く授業内容であることから TOEIC 中級講座1に統合した。さらに、学生の興味とニーズと並んで重要視する4技能（リーディング・リスニング・スピーキング・ライティング）のバランスを考え、後述する文部科学省の公表資料も参考にして、Speaking and Presentation Skills 1と Writing and Presentation Skills 1を継続開講することとし、これにより令和2年度から提供する8科目が出そろった。

この Speaking and Presentation Skills 1と Writing and Presentation Skills 1の2科目に関しては、希望調査回答者数だけで判断するのであれば廃止を検討すべきであると思われた。しかしこれらの科目の履修希望者が少ないことは、法文学部においてスピーキング科目やライティング科目の需要が少ないということを意味しない。なぜなら、法文学部には外国語コミュニケーション科目やグローバル・コア領域科目として English Composition 1・2、English Conversation 1・2、留学のための英語科目等が開講されているからである。このように法文学部全体のカリキュラムを考えれば、これら2科目をむしろ積極的に開講すべきであると判断した。実際に、これらの科目を履修してから English Conversation・English Composition を履修する学生が一定数いることがわかっているからである。

### 3.2 再編後開講の8科目の概要

既に平成29年度の単位取得状況を示したが、筆者は翌30年度の専門共通英語の担当授業で、単位未修得の状況にある3年生のコメントに「去年と違って今年はシラバスを見て授業に出られるので安心できる<sup>1)</sup>」とあったこと、また、平成30年の専門共通英語履修説明会で最も多かった質問が科目のレベルに関するものであったことに注目

し、既に基礎・中級・上級レベルがあった TOEIC 講座だけでなく 8 科目全体にレベルを設定することとした。

新たにレベルを設定するにあたり参考にしたのは、文部科学省により公表されている CEFR と英語の各種試験のレベル対応表と、本学の 1 年生が共通教育の英語で年に 2 回受験する GTEC Academic (リスニング・リーディングによる試験) のスコアである。CEFR とは外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages) で、言語の枠や国境を越えて、外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準である。

筆者が担当したクラス (法文学部 1 年生、28 名) の GTEC スコアによると、クラス平均が 230 以上あり大学全体では比較的高いと考えられる。文部科学省 (2018) では CEFR と 4 技能の GTEC (4 技能のテスト、1200 点満点) との相関関係だけが記載されていることから、本学学生が受験する GTEC Academic スコアに対して直接の相関関係を見いだすことは難しい。しかしながら筆者が担当したこの授業 (1 年次第 4 クォーター開講「英語Ⅳ」: リーディングクラス) の指定教科書が CEFR A2 レベルの長文を中心に収録されており、B1 レベルの長文も入ってはいたもの実際の授業において読解がかなり難しいというコメントを学生から受けた。そのことから考えると法文学部 2 年生の多くが A2 レベルの英語力であると推測できよう。

斉田 (2008) の分析では、日本人大学生が卒業時に目指す英語の CEFR レベルは B1 であると結論付けている。実際に B1 レベルに関して文部科学省 (2018) では、学習者の分類として「自立した言語使用者」(B1、B2) の一つの段階であり

仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

と記載されている。同じ資料の各資格・検定試験との対照表によると、B1 は実用英語検定 (英検) 2 級の中位から上位、準 1 級の下位から中位ぐらいと算出されている。この CEFR レベルと斉田の分析は、再編後の 8 科目の選定にも少なからず影響を与えた。英検 2 級レベルで「筋の通った簡単な文章を作る」ためには、2. 3 で述べた「学生が文化を通じて英語を学ぼうとする姿勢」があるだけでは十分とは言えない。また、希望調査の結果が示す学生のニーズには、映画や音楽に触れることで得られる楽しさを優先させる傾向があり、また、その楽しさがきっかけとなり英語学習への意欲が高まることは否定できない。一方、語彙や文法、構文の知識が必要となるラ

イティング科目は、希望科目の上位になりづらいのは明らかである。今回の科目の再編に際しては、法文学部生を大学卒業時に CEFR B1 レベルの「自立した言語使用者」として送り出す目標を達成するために、調査での希望上位科目のみで開講科目を構成することは避け、新たに科目のレベルを以下のように設定することとした。

A2中位まで：英語が苦手な学生＝「専門共通英語」初級レベル

A2中位から A2高位：英語が苦手でも得意でもない学生＝「専門共通英語」中級レベル

A2高位から B1：英語が苦手ではない、どちらかといえば得意＝「専門共通英語」上級レベル

その上で、中級レベルの科目を選ぶことになる学生が多いであろうことを予想し、8科目の構成を「初級2科目・中級4科目・上級2科目」と決定した。対応する英検のスコアとレベルを考えると高いとは言えない目標に見えるが、これは本学に限らず多様な選抜方式で入学する学生がいることを考えると英語力にはばらつきがあるのが当然であり、そのばらつきに対応することができ、英語に苦手意識を持つ学生がやり直せる授業という意味でも、専門共通英語に A1 上位を基礎レベルとみなす必要性はある。

開講する8科目のレベル設定に関しては、海外文化を知り、発音に慣れることで英語の苦手意識を減らす「映画で学ぶ英語」と English Pronunciation Practice 1 を初級に、TOEIC 上級講座（目標スコアはそれまでの650から700とした）と Academic Reading Skills 1 を上級に、残りの科目を中級にすること、また、開講学期については前後期制に戻り、各学期に初級1科目・中級2科目・上級1科目を置くことでカリキュラムのシステム上の再編は完了した。

また、新たに定員再編後には、専門共通英語を必修科目として履修する学生と選択科目として履修する学生がいることから、クラスにおける定員の割合を考える必要が生じた。まずは、クラス定員における「必修科目として履修する学生」であるグローバル・スタディーズコース履修学生（法文学部における1学年の定員は60名）のそれぞれの定員を定めた。以上の再編により、令和2年度からの専門共通英語の開講は表2の通りとなった。



(表2 令和元年入学生から適用の時間割)

科目名	定員	GS2回生定員	GS2回生以外の定員
前期月曜2限：映画で学ぶ英語	50	40	10
前期月曜4限：Brush Up Your English Grammar 1	50	40	10
前期木曜2限：Speaking and Presentation Skills 1	20	16	4
前期木曜4限：Academic Reading Skills 1	50	40	10
後期月曜3限：Writing and Presentation Skills 1	20	16	4
後期火曜1限：TOEIC中級講座 1	50	40	10
後期木曜3限：English Pronunciation Practice 1	50	40	10
後期金曜1限：TOEIC上級講座	50	40	10

\*GS = グローバル・スタディーズ履修コース

## 4. 再編後の授業実施状況と問題点

### 4.1 令和2年度授業実施状況

令和2年度の授業実施状況は表3の通りである。

(表3 令和2年度受講状況)

科目名	履修者数
映画で学ぶ英語	37
Brush Up Your English Grammar 1	11
Speaking and Presentation Skills 1	18
Academic Reading Skills 1	50
Writing and Presentation Skills 1	14
TOEIC中級講座 1	16
English Pronunciation Practice 1	27
TOEIC上級講座	11
計	184

再編後の履修希望調査でも、これまでと変わらず第1希望から第8希望をMoodleで回答し送信させている。また、必修科目として履修するグローバル・スタディーズ履修コースの全ての学生が第1希望と第2希望の科目を履修することになった。さらに、選択科目として履修を希望するグローバル・スタディーズ履修コース2年生以外の学生に関しては、ほぼ全ての学生が希望通りの数（最大2科目まで履修可能）の希望通りの科目を受講した。これまで2年生の時に単位未修得者となった学生は、次の年にその半分以上が単位を修得していたが、今回の単位未修得者では約6割に上昇した。グローバル・スタディーズ履修コース2年生に関しては、単位を取ることができ

なかった学生はわずか3名、選択科目として履修した学生はほぼ全員が単位を修得した。

#### 4.2 希望調査回答スケジュールの問題

カリキュラム再編により希望調査回答から履修クラス確定までの手続きがやや複雑になった。必修科目として履修するか選択科目として履修するかは学生の所属コースによって決まるため、履修の希望調査の実施は、所属コースの決定と発表を待たねばならないからである。日程的には、それまでに比べ極めてタイトなものになり、令和3年度を例にとると、クラス分けをする対象人数は大幅に減っているものの、「所属コースの発表」→「Moodleによる専門共通英語履修希望調査」（必修科目としての履修者・選択科目としての履修者）→「調査結果を基にクラス分け」→「単位未修得者のクラス分け」→「学生の履修科目を教育支援課法文学部チームに渡し、入力が完了」までわずか10日間であった。特に単位未修得者（3年生以上）に関しては、専門共通英語が2年生の必修科目が入らない時間帯に設定されているが3年生以上の必修科目と重なる場合があるため、選べる科目が制限されることがある。また、カリキュラム開始3年目には、単位未修得の4年生の存在もクラス分け作業で考慮すべき点となり、クラス分け作業が複雑化し負担が大きくなった。令和3年度の調査からは、選択科目として履修を希望する学生に向けて Microsoft Forms を活用し、前年の2倍の受講者を得るに至った。

#### 4.3 再履修学生の問題

単位を修得できない学生は、平成29年度を除き、毎年平均して受講対象学生の5%程度にとどまっているものの、一人一人の履修状況を確認しながらの履修科目決定とそれに関わる手続きは、クラス分けをする教員、さらに履修登録作業を行う教育支援課法文学部チームの職員にとっても負担は小さくない。筆者が確認したところでは、再履修者のうち再び単位を落とす学生が半数ほどいることから、年を追うごとにクラス分けの手続きは複雑になっていく。例えば、カリキュラム3年目の平成31年には、クラス分けをする対象学生は2年生273名（調査回答者）・調査に未回答の2年生・再履修者（4年生・3年生）・夜間主学生・3年時編入学生・追加履修（既に必要な単位数を取得し追加で履修する）学生となり、再履修者の中でも4年生と3年生を同列に扱うべきか、どちらかを優先すべきかということが問題となった。つまり、再履修学生の中でもクラス分けにおける優先順位を設ける必要が生じたのである。

再履修となる単位未修得の学生の問題は、クラス分けに関することにとどまらない。2年生が圧倒的に多い授業に混じって学ぶのには気後れやストレスが生じること

可能性があり、そのことで授業を欠席しがちになり出席不足で再び単位を落とすということにつながることを考えられる。現在学生の指導教員と緊密な連携をとっての対応を心がけているが、最初に科目を選ぶ際に学生と提供される科目間のミスマッチをできる限り防ぐことができるような対策も求められるだろう。そのため、令和4年度履修希望調査の説明資料（資料1）には、科目の選び方に悩んだ場合の履修パターンを6種記載し、より自分の興味とニーズに合った科目が選べるよう配慮した。

#### 4.4 授業環境向上のための定員の問題

令和2年からの授業の管理運営はコロナの影響を大きく受けた。特に「映画で学ぶ英語」では、教室で映像を見せたり曲を聞かせたりすることができなくなり、教室の授業で行っていた演習の多くが、遠隔同期型の授業であったとしても行えなくなっていった。対面での説明会が開催できず、Moodle上にあるスライドと資料を見て質問を書いてもらい筆者にメールで送るという形をとった。学生からのメールの中には、授業についていけるかという不安、コロナ感染対策に関するものが見られたが、クラス定員に関する質問や意見が令和2年から見られるようになってきた。いくつかの例をここに紹介する。

- ・50人という大きなクラスでの英語授業が不安です。
- ・小さい規模のクラスに入れてほしい。
- ・たくさんの人の前で英語を話したりするのは緊張する。

注目すべきは、クラスの定員に関する質問や意見は、履修希望調査に関する1年生だけでなく、3年前から授業でのコメントにも現れていることである。筆者の授業でのコメントからあげてみる。

- ・この授業（筆者注：Speaking and Presentation Skills 1令和3年度の履修者は11名）はZoomでもみんなと話せる人数でとても授業が充実した。
- ・語学の授業であまりたくさんの学生がいると、先生にちゃんと授業での演習を見てもらえるか不安だ。

学生が過ごしてきたこれまでの学校生活や個別指導の塾等での経験から、今後は大学においてより小規模できめ細やかな指導環境が求められていく可能性がある。さらに、コロナ禍における授業での感染対策を考えるなら、教室において学生間の距離を適切に保つ必要があり、50名の定員を保ち続けると使用できる教室を確保するのが

難しくなる場合もある。大学によってはリーディング・リスニングなどの外国語の受容能力を高める指導を行う授業では、定員の上限を40名としているところもある。これらの状況から、今後現行の定員数（スピーキング・ライティングの授業：20名 その他50名）を見直すことも視野に入れておく必要があるだろう。

## 5. おわりに

以上、法文学部に平成29年度から開講した専門共通英語のカリキュラムを、科目の担当教員として管理運営に責任を追う立場から、これまでの授業実施状況の報告と、管理運営上の2つの問題への取り組みについて述べた。科目内容の幅広さ、特徴的な履修方法は極めて受講する学生にも教員にも利点が多い。大学入学試験がセンター試験から共通テストとなり、今年から高等学校の学習指導要領が変わった現在、この特色ある専門共通英語を、より学生中心のカリキュラムとして成長させるべく、今後も改善を続けていきたい。

### 〈注〉

- 1) 筆者担当の *Brush Up Your English Grammar 2* のシラバスにはレベルに関する記述はなかったものの、キーワードの1つが「基礎英文法」だったことを指している。

学生中心の英語授業カリキュラム開発を目指して

〈資料〉

- 令和3年度入学生用履修希望調査説明会資料（別添）
- 平成29年から現在に至るまでの専門共通英語開講科目リスト

平成29年-平成31年開講科目	開講期	定員	令和元年開講科目	開講期	定員	令和2年以降開講科目	開講期	定員
映画で学ぶ英語	1	50	映画で学ぶ英語	1	50	映画で学ぶ英語	1	50
Brush Up Your English Grammar 1	1	50	Brush Up Your English Grammar 1	1	50	Brush Up Your English Grammar 1	1	50
Brush Up Your English Grammar 2	1	50	Brush Up Your English Grammar 1に統合					
Speaking and Presentation Skills 1	1	20	Speaking and Presentation Skills 1	1	20	Speaking and Presentation Skills 1	1	20
Speaking and Presentation Skills 2	1	20	Speaking and Presentation Skills 1に統合					
TOEIC基礎講座 1	1	50	TOEIC基礎講座 2に統合					
音楽で学ぶ英語	2	50	音楽で学ぶ英語	2	50	English Pronunciation Practice 1に統合	2	50
Practical Reading Skills 1	2	50	Practical Reading Skills 1	2	50	TOEIC中級講座1に統合	2	50
Practical Reading Skills 2	2	50	Practical Reading Skills 1に統合					
TOEIC基礎講座 2	2	50	TOEIC基礎講座 2	2	50	Brush Up Your English Grammar 1に統合	2	50
TOEIC中級講座 1	2	50	TOEIC中級講座 1	2	50	TOEIC中級講座 1	2	50
Academic Reading Skills 1	2	50	Academic Reading Skills 1	2	50	Academic Reading Skills 1	2	50
English Pronunciation Practice 1	3	50	English Pronunciation Practice 1	3	50	English Pronunciation Practice 1	3	50
Practical Listening Skills 1	3	50	Practical Listening Skills 1	3	50	TOEIC中級講座1に統合	3	50
Practical Listening Skills 2	3	50	Practical Listening Skills 2	3	50	TOEIC中級講座1に統合	3	50
TOEIC中級講座 2	3	50	TOEIC中級講座 1に統合					
English Pronunciation Practice 2	4	50	English Pronunciation Practice 1	4	50	English Pronunciation Practice 1	4	50
Writing and Presentation Skills 1	4	20	Writing and Presentation Skills 1	4	20	Writing and Presentation Skills 1	4	20
Writing and Presentation Skills 2	4	20	Writing and Presentation Skills 1に統合					
Academic Reading Skills 2	4	50	Academic Reading Skills 2	4	50	Academic Reading Skills 1に統合	4	50
TOEIC上級講座	4	50	TOEIC上級講座	4	50	TOEIC上級講座	4	50
定員合計		930	定員合計		630	定員合計		340

〈参考文献〉

- 斉田智里（2008）ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）による日本人大学生英語力診断の試みー英語教育達成目標へのCEFR適用可能性の一検討ー, JACET Journal, 127-140
- 文部科学省（2018）, 各資格・検定試験とCEFRとの対照表  
 (<https://www.mext.go.jp/mext.go.jp>),

〈謝辞〉

本稿で扱った授業実施状況のデータは教育支援課法文学部チームの、またGTECスコアデータは英語教育センター事務室の協力によるものです。ここに記して感謝します。

## 専門共通英語履修登録のための希望調査について

2021. 11. 11

2021年度に法文学部昼間主に入学した皆さんのうち、グローバル・スタディーズ履修コースを選んだ人は、2回生時に「専門共通英語」2科目（4単位）を必ず履修することになっています。

以下では、主としてグローバル・スタディーズ履修コースに所属することが決まった人へのみ必要となる手続きについて説明することとします。

この「専門共通英語」は、8科目あるメニューの中から任意の2科目を選んで履修する形（ア・ラ・カルト方式）をとります。この2科目については希望調査結果に配慮しながら教員がクラスの振り分けを行い、それが教育支援課によって登録されます。グローバル・スタディーズ履修コースに所属することが決まった人は、**2022年3月末から始まる履修登録に際して、「専門共通英語」科目を個人で入力することはできません。**

また、クラスの振り分けに際しては、全てのクラスにおいて人数の上限があることから、希望調査の結果上限人数を超えたクラスについては無作為の抽選を行い、抽選に漏れた人にはその人が申請している次の希望順位のクラスに回ってもらうことになります。

定員については次のように設定されています。

スピーキング・ライティング科目：20名（うちグローバル・スタディーズコース学生 16名） それ以外の科目：50名（うちグローバル・スタディーズコース学生 40名）
--

なお、クラス分けの結果は、3月末から始まる次年度の履修登録の際に各自修学支援システム上で確認して下さい。（履修登録システムの関係で、3月末段階では後学期の結果を見ることはできません。）

ついで、法文学部昼間主1回生の中でグローバル・スタディーズコースに所属が決まった学生の皆さんは、**必ずこの希望調査に回答して下さい。**回答期限は所属履修コースの発表後3日間とします。

### \*注意点

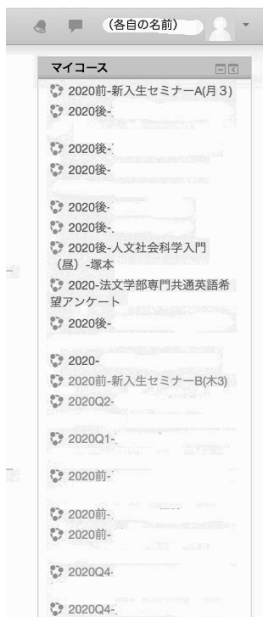
1. 今回の希望調査に対し回答をしなかった人、あるいは無効回答をした人は、全てのクラス分け終了後定員に余裕のある科目に無作為で割り振られることになります。

2. 回答に際しては、一定の条件を満たさない場合無効回答として扱われますので、十分注意してください。考慮すべき条件については以下に説明をします。
3. 単位が取れなかった場合、必修科目なので再度履修するしかありませんが、次の登録機会は3回生以降となります。その場合選択肢はかなり限られたものになることを覚悟しましょう。
4. 必修の4単位を越えて「専門共通英語」を履修することもできますが、それら追加の登録は皆さんが3回生になって以降となります。
5. グローバル・スタディーズ履修コース以外に所属が決まった人も、実践科目の選択科目として2科目まで専門共通英語を履修することができますが、この場合も**2022年3月末から始まる履修登録に際して、「専門共通英語」科目を個人で入力することはできません。**履修の申し込みは、グローバル・スタディーズ履修コースの希望調査回答期間と同じ時期に行います。申し込み方法については、履修コース発表日に掲示でお知らせをします。

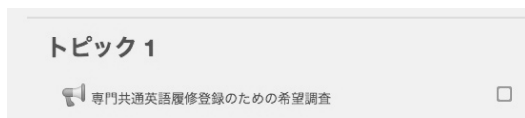
◆希望調査の回答方法◆

回答期間は 2022年3月中旬の所属履修コース発表日17:00から3日間とします。

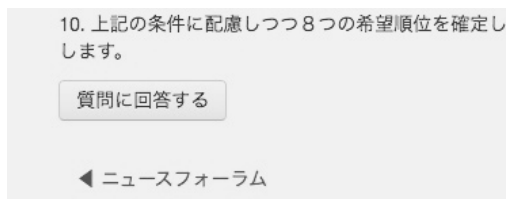
1. まずは Moodle 3.5（愛媛大学e-learningシステム）にログイン。



- 画面右端、「マイコース」から「**2021-法文学部専門共通英語希望アンケート**」をクリック。
- トピック一覧の中から、「**トピック 1 専門共通英語履修登録のための希望調査**」をクリック。



- 出てきた画面のリンク「**専門共通英語履修登録のための希望調査について.pdf**」をクリック。別ウィンドウで表示されるPDFファイルを通読する。選択肢となる8科目の概要等もここで確認できます。
- アンケート本体の画面の一番下「**質問に回答する**」をクリックして、アンケート画面を呼び出しましょう。



- 第1希望から第8希望まで、それぞれプルダウンメニューで画面に表示されます。(次ページ参照) ただし、同一科目を重複して選ぶ、あるいは下記7～11の条件を満たしていない選択を行った場合は回答全体が無効となります。



### 専門共通英語履修登録のための希望調査

モード: ユーザー名を記録して回答と共に表示する

第1希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第2希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第3希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第4希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第5希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第6希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第7希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

7. プルダウンメニューを開き、開講学期・曜日時限の異なる8つの科目の中で第1希望から第8希望までの順位付けを行いましょう。

第1希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

▼
前期 月2 映画で学ぶ英語
前期 月4 Brush Up Your English Grammar 1
前期 木2 Speaking and Presentation Skills 1
前期 木4 Academic Reading Skills 1
後期 月3 Writing and Presentation Skills 1
後期 木3 English Pronunciation Practice 1
後期 火1 TOEIC中級講座 1
後期 金1 TOEIC上級講座

第4希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第5希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

第6希望の科目をプルダウンメニューの中から選択して下さい。\*

8. 希望順位を決める際に、開講期の順番に配慮する必要はありません。例えば第1希望科目を後学期、第2希望科目を前学期科目から選ぶことも可能です。皆さんの興味、レベル、時間の都合に基づき希望順位を決めましょう。ただし、その際には第1希望から第8希望まで**全て異なる科目**にしてください。重複して希望が出されている場合、回答全体が無効として扱われてしまいます。
9. TOEIC関係は「中級講座1」「上級講座」の2教科がありますが、これについては受講できるのは1科目のみとします。
10. 上記の条件に配慮しつつ8つの希望順位を確定したら、画面の一番下にある「**あなたの回答を送信する**」ボタンをクリックし、回答を終了します。

◆各科目の概要◆

**映画で学ぶ英語** (定員 50名) 前学期：月曜2限 レベル：初級

映画作品の映像資料やシナリオを使い、映画の中で使用されている英語表現について多角的に学ぶ。英語圏の文化的・社会的背景についての理解を深める。

**Brush Up Your English Grammar 1** (定員 50名) 前学期：月曜4限 レベル：中級

短い日常レベルの会話や文をつかった文法の授業。まず、学生にとってなじみ深い種々の言語表現の用法について学び、さまざまなタイプのアクティビティによる練習を行う。

**Speaking and Presentation Skills 1** (定員 20名) 前学期：木曜2限 レベル：中級

多様なトピックの英文を読んで内容を理解し、それぞれのトピックについてペアワークで会話をしたり、単独でのプレゼンテーションを行う。

**Academic Reading Skills 1** (定員 50名) 前学期：木曜4限 レベル：中級

専門研究に必要とされるさまざまな英語の文献（書籍・論文・記事など）を素材として、基本的な専門用語や学術的な言いまわしにも親しみながら、英文読解力をつける。

**Writing and Presentation Skills 1** (定員 20名) 後学期：月曜3限 レベル：中級

プレゼンテーションやディスカッションでよく使われるフレーズや語彙を知り、わかりやすく自分の考えや気持ちを書いて伝えるコツについて演習を通して学ぶ。

**English Pronunciation Practice 1 (定員 50名) 後学期：木曜3限 レベル：初級**

英語の聞き取りや会話に重要な音の強弱・母音・子音・音の連続などを、実際に発音し発音記号と結び付けてとらえる練習を行う。

**(TOEIC 関連各クラス共通)** 頻出のテーマごとに、重要語句・基礎文法・解法のポイントを学ぶ。毎回全パートを実際の問題形式で解き、英語運用能力をバランス良く向上させることを目指す。

**TOEIC 中級講座 1 (定員 50名) 後学期：火曜1限 レベル：中級**

目標は TOEIC600 点。

**TOEIC 上級講座 (定員 50名) 後学期：金曜1限 レベル：上級**

目標は TOEIC700 点。 GTEC250 以上の人向け。

※ 選び方に悩んだ場合は例えば次のような選び方を参考にすることもよいでしょう。

- ・英語は苦手だけれどとりあえず日常会話を勉強したい  
→映画と English Pronunciation Practice 1
- ・スピーキング中心に勉強したい  
→Speaking and Presentation Skills 1 と English Pronunciation Practice 1
- ・就職活動のために今から少しでも勉強したい  
→TOEIC 中級+ (Brush Up Your English Grammar か Academic Reading)
- ・英語での発信力を高めたい  
→ Speaking and Presentation Skills 1 と Writing and Presentation Skills 1  
→ Brush Up Your English Grammar と Writing and Presentation Skills 1
- ・英語力はまあまあ、速読力をあげたい  
→TOEIC 上級と Academic Reading Skills 1

※今回の調査に関して質問等がある場合は、[hayata.miho.vy@ehime-u.ac.jp](mailto:hayata.miho.vy@ehime-u.ac.jp) まで問い合わせ下さい。